

## 令和2年度 泉佐野丘陵地緑地 第2回運営審議会

日時：令和3年3月17日（水）14:00

場所：泉佐野丘陵緑地 パークセンター

### ◆出席委員（敬称略）

大阪府立大学 名誉教授 増田昇（会長）

大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 助教 阿久井康平

大阪府立大学 生命環境科学研究科 助教 上田萌子

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 代表 久住和茂（WEB）

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 副代表 小門豊

大輪会事務局長 櫻井秀樹（WEB）

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 武田重昭（WEB）

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 事務局長 那須利之（WEB）

泉佐野市都市整備部 部長 中平良太（WEB）

和歌山大学 観光学部 教授 堀田祐三子

元大阪府立大学大学院 教授 前中久行（WEB）

### ◆欠席委員 なし

### ◆傍聴者 5名

### ◆概要

#### 1. 審議案件

##### ①今年度の活動報告と次年度の運営方針等について

- ・泉佐野丘陵緑地の整備予定等について
- ・パーククラブの活動方針等について
- ・連携プログラムについて

#### 2. 報告案件

##### ①泉佐野丘陵緑地の活性化について

##### ②その他

## 1 審議案件

### ① 今年度の活動報告と次年度の運営方針等について

- ・泉佐野丘陵緑地の整備予定等について

承認

- ・パーククラブの活動方針等について

- ・次年度方針の「女性チームの活動」について。新しい7つ目のチームとするのは難しいか。
  - リーダーを据えたチームになることはまだ難しいが、検討したい。
- ・女性チームという名称だが、性別をチーム名に反映する時代ではない。名前も検討を。
- ・活動の目的や特徴を踏まえたチーム名がよいだろう。
  - まだ目的などの設定はできていない。検討していきたい。
- ・遊具の設置について。今は全国の公園で遊具による事故が大きな問題となっている。遊具を設置したいならば自由利用ではなく、プレイリーダーが側について一緒に遊ぶ形にすること。
- ・例として挙げられている丸太機関車の遊具も、煙突の上に子どもが昇るといったリスクがある。解体した丸太機関車を、当日に子どもと一緒に組み立てるような活動にするとよいだろう。
- ・公園の遊具は製造者責任において設置されている場合がほとんど。手づくりの遊具を設置する場合、事故が起きた時の責任範囲が問題となる。プログラム中での利用なら問題はないだろう。
  - パーククラブ内部でも、この公園は遊具で遊ぶよりも、自然の中で自由に遊ぶ公園ではないかという意見が出ていた。今回の意見も踏まえて検討していきたい。
- ・「四季折々の景観と生物の楽しめる空間づくり」の具体的なイメージがあれば教えてほしい。
  - まだアイデア段階。例えばクヌギ広場にシロツメクサを敷き詰めて、四葉のクローバーを探すイベントや花の首飾りを作るイベントなどが考えられる。茶畑にはスマレ、クヌギ広場の周囲にはアオモジがある。そんな景観を意図的になりすぎずにつくりたい。
- ・この地域や里山の特徴が公園にも表れるような景観がつくられるとよいだろう。
- ・既存の資源を利用する方法を考えるとよい。例えばシロツメグサの群落は作ろうと思って作れるものではない。今まであまり活用されていなかった植物にも着目するとよいだろう。
- ・現在、どのような方々による利用が中心なのか。また今後はどのような利用者層を増やしていきたいのか。「また来たくなる公園」とは、リピーターを増やしていきたいということか。
  - 肌感覚でいうと、来園者の多数を占める高齢者と親子連れは近隣が多い。公園のユニークな魅力をもっと発信し、遠方からも来たくなるようにしたい。
- ・大阪市内から車を使えば1時間ほどで来ることができる距離なので、可能性はあるだろう。
- ・コンテンツは魅力的だと思うので、発信が重要になるだろう。大阪府やパーククラブの皆さんがどんな人たちに来てほしいと考えるのが大切。自然環境を大切にしている公園なので、大

人数に来てほしいというわけではないと思う。例えば、活動に理解を示してくれる人たちをターゲットにする、など。一緒に考えていきたい。

- この公園に長く関わっている立場としては、単純に人数を増やすのではなく、理解者の総和を増やしていきたいと思っている。ただ横切るだけの人数を増やすのではなく、公園の良さや意図や趣旨を理解する人を増やしたい。
- 誰でも来ればいいというわけではなく、活動内容を理解する人に来てほしいという点は同意である。ホームページだけではなく、様々な発信方法を考える必要があるだろう。
- 関係人口を増やしていくということだろう。関係人口づくりとしては SNS などによる地道な発信も大切と言われているが、泉佐野市にもシティプロモーション協議会があるので、協働して考えていきたいと思う。
- 新型コロナの影響により、レクリエーションの場としての公園や緑地などの活用方法が変容してきている。例えば和泉葛城山のブナ林は従来よりも来る人が増えている。今まで自然的なものに興味を持たなかった人が興味を持ち始めている。屋外で色んなことができることを発信していくことが大切だろう。
- 長居公園の植物園は有料にも関わらず、冬場の入館者数は例年の 2~3 倍はあったという。植物園に親子連れで来られる。アフターコロナという追い風をどのように受け止めることができるのかを常に意識する必要がある。
- 天神川流域エリアの開放については、ホテルの鑑賞のために毎晩公園を開放するのは難しいだろう。日程を決めて限定的に開放することになるのではないかと。
  - 天神川流域エリアはそこに向かうための階段や道のメンテナンスを含めて大阪府と協議しながら開放する方法を検討する必要がある。このエリアは蛍が集まる夜だけでなく、昼間も水辺を楽しめる場所である。1 年間かけて検討していく予定。
- このエリアは 3 種類の蛍を観察することができる場所である。流水型のゲンジボタルと、止水域型のヘイケボタルと、陸生型のヒメボタルである。3 種類を 1 ヶ所で観察できるエリアは貴重なので、うまく開放して府民に楽しんでもらいたい。
- 水辺の広場南側のハンノキ林の間伐について、ハンノキ林をどのような姿にするのかという目標設定が最初に必要な。間伐の主目的は森林を大きくすることであるが、このハンノキ林の目的は大きくすることではなく、ミドリシジミの保全など、生物の多様性を目的にしていたはずである。間伐によって目標に達することができるのかどうかは、よく検討したほうがいい。
  - 自然ふれあいチームとしては、現在はハンノキ林が大きくなりすぎており、ミドリシジミの蜜源植物としてのクリなどが植樹しづらい状況であることから、間伐を考えている。林を大きくするための間伐ではない。
- その場合、通常の間伐方法とは異なることを理解しておく必要がある。

・広報活動について、パーククラブでは出張による広報には取り組んでいないのか。例えば堺自然ふれあいの森では、地元の祭りにブースを出し、パネル展示だけでなく工作などの体験プログラムを実施している。パネルだけでは人は来ないので、体験プログラムであることが大切である。

→ 今のところ考えていない。パーククラブ内で共有する。

・樹木名板は、来園者と一緒に作る体験プログラムにしてみてもどうか。樹木の種類を学ぶことができるので、子どもたちにとっては学習プログラムにもなる。

---

### ・連携プログラムについて

---

・承認

## 2 報告案件

### ① 泉佐野丘陵緑地の活性化について

#### ・ルートマップについて

---

・この公園の初心者視点としては、竹林から垣間見られる池など、様々な眺望があることが魅力的だと思った。そういった初心者の視点と、パーククラブの皆さんのような玄人の視点では違いがあるはずなので、玄人の視点もうまく盛り込まれたルートになるとよいだろう。

・今回のマップの場合、パーククラブによるオススメ地点などがあるとよいだろう。

・足元が危ない場所や、ハチに襲われやすい場所など、危険な場所を示すことはできないのか。

→ 既存のコトマップにも、階段の位置は掲載済み。ルートマップはテーマに応じて作っているが、そこに危険な場所の情報も盛り込むと情報過多になるかもしれない。検討する。

・パソコンなどを使ったマップ作成については、誰かにお願いするのではなく、方法を教えてもらいながら自分たちで作ってほしい。

・完成するまで配架しない、ということではなく、途中段階でもいいので配架し、1度お客さんに使ってもらって感触を確かめてほしい。

・冊子「つくり続ける泉佐野丘陵緑地のあゆみ」に載っている整備秘話などが、マップ上でも見ることができるといいかもしれない。

### ② その他

シンガポール工科デザイン大学博士論文の調査対象としての協力依頼について

・大学による研究対象として公園が活用されるのはよいことなので、依頼する際の申請書などの手続きを整えておくといいだろう。

上